



東深沢中だより

<https://school.setagaya.ed.jp/thiwa>

みしまの森学舎
世田谷区立東深沢中学校
校長 本田 仁
令和7年12月25日
第8号



未来の世界は広く、多種多様！～体験への想像力を～

副校長 岡部 宏子

先週 19 日、みしまの森学舎の活動の一環として、みしま幼稚園で、2学期の授業見学会を踏まえ、学舎の幼稚園、保育園、小学校の先生方との意見交換会がありました。その中で子どもたちが他者を理解するために、幼少期や学齢期の段階で「実体験と想像力」を大切にしながら行事などの活動を行うという共通項がありました。

ヒガシのアオハルでは国内の話題が多かったので、今回は海外に関係した実践に注目しながら2学期を振り返りたいと思います。

10月には JICA（独立行政法人 国際協力機構 Japan International Cooperation Agency の略称）の研修員の方々が、ブルキナファソ、ウガンダ、カメルーン、南スーダン、ラオスから我が校に訪問しました。JICAは開発途上国の経済や社会の発展を支援し、国際協力を促進することを目的としています。ビジョンは「信頼で世界をつなぐ(Leading the world with trust)」です。日本が培ってきた経験や信頼をベースに、世界平和と発展に貢献することを目指している組織です。



アフリカからの研修員の方々は、飛行機で自国からエチオピアのアディスアベバ、そして韓国のソウルで乗り換え、東京まで2日間かかったとおっしゃっていました。日本での研修は、スポーツ庁で学校体育の背景や目的について講義を受け、その後実際の教育現場で直接様子を見学したいという強い要望で今回実現しました。研修員の出身国では、安全な運動場やスポーツ用具が整っていない、体育教員が配置されていない学校も多くある中、日本の授業では少しずつ難易度を上げてできることを増やし生徒の自信へとつなげていく姿、そして生き生きと自分の好きなことに思いっきり取り組んでいる部活動が大変参考になったと感想が寄せられました。

11月には2年生、そしてI組の生徒たちと、駒沢オリンピック公園にデフリンピックの観戦に行きました。「デフ(deaf)」は英語で「耳が聞こえない」という意味で、オリンピックと同じく4年に1度、夏季・冬季大会が開催されます。ろう者が一般の大会に参加すると、審判の笛やスタートの音が聞こえないために不利になることがあり、視覚的な情報保障（フラッシュランプや旗など）を用いた、ろう者のための公平な大会が必要とされました。「静かなる祭典」とも呼ばれますが、会場は選手たちの熱気と視覚的なコミュニケーションで非常に活気にあふれていました。日本で初めて開催された「東京2025デフリンピック」は、100周年という記念すべき節目にふさわしい熱狂のうちに閉幕しました。

他にも今までご紹介した修学旅行、学芸発表会、茶道体験、ふれあい体験、移動教室、職場体験、またSTEPの見守り、学校公開、先日の日本体育大学の准教授による出前事業など地域の方々にご支援、ご協力いただき多くの体験をさせていただきました。生徒の皆さんの2学期の貴重な経験を冬休みにご家庭などで話題に出し、全力で競技していた人、遠い国から来日した人、授業や体験の機会を与えてくれた方々、行事に共に臨んだ仲間たちがどんな環境でどんな人生を歩んでいるのか想像してみてください。相手への想像力は思いやりや優しさにつながり、他者を理解する時の助けとなり、多くの人たちの思いを胸に、皆さんの経験をこれからの「未来を生きる力」にして欲しいと願っています。

最後になりましたが、今年も本校の教育活動にご理解、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。保護者の皆様、地域の皆様に支えていただき、行事、学習、生活と生徒にとって充実した学期となりました。感謝の気持ちでいっぱいです。来年も引き続きご支援の程、よろしく願いいたします。それでは皆様、どうぞ良い年をお迎えください。